
黒い猫が僕の街にやってきた

時任 娜魄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒い猫が僕の街にやってきた

【Nコード】

N1182F

【作者名】

時任 娜魄

【あらすじ】

不思議な少しかわった猫が僕の街にやってきたっ！

第一話：子猫と僕

雪が積もりコタツに潜り込む季節がきた時でした。

僕、櫟咲 珞夜「イチサキラクヤ」が公園で一休みをしていると目の青い小さな子猫が僕の前に座り込みました。

首輪もしていない子猫は僕に笑いかけるように鳴いて目を輝かしている。

猫が話す訳もないのに僕は話しかけていた。

「お前も一人か？」

話す訳ないか……。

そのまま僕は猫に背をむけ家に向けて歩きだした。

ついてくる事は何もなかった。

その夜、僕の部屋に黒い影が忍びこんだ。

小さい影が僕の前にちよこんと座りこんだ。

それは夕方出会った黒い猫で青い目が綺麗に光っている。

おいおい！？

まじかよ……。

ここアパートなんだけどっ！

「おいっ！猫！出ていけっ！」

って何言ってるんだ自分はっ！

猫に話しても意味ないだろーっ！

僕は猫を抱き上げ外に出した。

気にする事なくまた深い眠りについた。

朝早くに手元がいつもと違う違和感を感じて目が覚めた。

なんだよ……。

頭をかきゆつくりと目をあけた。

なんだ猫かぁー。

って猫お？

昨日の猫がまた僕の前に座っている。

どうしているんだよっ！

外にだしたぜっ！

僕は混乱して頭をおさえて自分の目を疑った。

そしてため息をついて猫の頭を撫で回した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1182f/>

黒い猫が僕の街にやってきた

2011年1月25日23時23分発行